

第29回北方圏国際シンポジウム『オホーツク海と流氷』

紋別市総務部 企画調整課

第29回北方圏国際シンポジウム『オホーツク海と流氷』が、2月16日から19日までの4日間の日程で、紋別市において開催されました。

本シンポジウムは、昭和61年に、当時紋別市にありました「北海道大学低温科学研究所 附属流水研究施設」の開設20周年記念として開催されたのがきっかけとなり、それ以降、毎年2月に開催しています。国内はもとより海外からも幅広い分野で活躍をされている皆様にご参加いただき、「流水」を切り口に、氷海や生態系などの調査研究をはじめ、環境汚染や地球温暖化など地球規模の課題に関する研究成果を発表する場として、大変重要な役割を果たしており、科学者による研究報告のみにとどまらず、オホーツク圏における産業や経済、文化などの発展を目指した数多くの講演や協賛イベントなどを開催しております。



開会式に彩りを添えた幼稚園児のアトラクション

本年の開会式においては、朝日新聞記者中山由美さんとNHK札幌放送局の川瀬直也さんを特別講演の講師にお迎えし、中山さんからは「南極から地球が見える」と題し、南極越冬隊での貴重な体験談や地球規模のスケールの大きな自然科学についてご講演いただき、川瀬さんからは「流水の海から羽ばたけ～NHK潜水カメラマンの挑戦～」と題し、水中撮影技術や流水が来るオホーツク海の自然の素晴らしさなどを、体験談を織り交ぜながらご講演いただきました。

また、ワークショップ「油汚染」は、サハリンIIプロジェクトの石油・液化天然ガス輸送に関し、万が一、大型タンカー等による油流出事故が起きた際には、オホーツク海沿岸域の被害は甚大なもので地域経済は大きな打撃を受けることとなり、油汚染を身近な問題と



中山さんの「特別講演」では、南極越冬隊での貴重な体験などを紹介してとらえてもらう機会として開催しております。本年は、「サハリンエネルギー社」からサハリンIIプロジェクトに関する最新の事業内容をはじめ、油汚染対策として、日頃から流出事故が起きた際の訓練に取り組んでいることや、予防、準備、保護の油流出対応の3原則を遵守し、常に環境保護に努めている現状の報告がありました。これに対し、油汚染の専門家からは、実際に日本で発生した油流出事故を例に問題点や課題についての報告があった他、地球温暖化により新たな航路として注目を浴びている北極海航路の構築によりタンカーの航行が増加し大型化することで油流出のリスクが高まっていることなどが報告され、油流出対策の必要性について意識を高めました。



ワークショップ「油汚染」では油流出対策の必要性を再認識

さらに、本年、新たな試みとして市民公開講座「オホーツク海新時代～新たな地域振興の航路図」を開催し、アムール川流域での北海道寒冷地農法の導入について、ロシア極東地域における地域経済への影響やアムール川の環境保全について紹介いただいた他、オ

ホーツク海沿岸地域におけるメタンハイグレードやメガソーラーなど次世代エネルギーの活用や可能性についての情報提供が行われ、オホーツク海地域における地域振興の新たな可能性を探りました。

開会式前日より大雪に見舞われ、飛行機の欠航や札幌紋別間の都市間バスや市内バスの運休が相次いだ中、あらゆる手段で多くの参加者にお集まりいただき、最新の研究成果を世界に向け発信することができました。

また、世界で活躍するカラフト・アイヌの伝統弦楽器トンコリの奏者 OKI さんを招いた「氷海の民シンポジウム」や小学5年生を対象に流水について理解を深めてもらう「子どもと親の流水シンポジウム」など盛り沢山のプログラムを開催し、運営に携わる市民ボ

ランティアの皆さんのご協力のもと、市民手作りのシンポジウムは幕を閉じました。



会場から沢山の質問があった「子どもと親の流水シンポジウム」